



スポーツ庁

スポーツ・健康まちづくりについて

令和元年6月10日
スポーツ庁 提出資料

1 地域スポーツコミッションの活動支援・スポーツツーリズムの推進

2 大学スポーツの振興

3 スタジアム・アリーナ改革

4 スポーツスペースとスキルのシェアリングエコノミー

5 スポーツオープンイノベーションプラットフォーム（SOIP）

6 スポーツ資源がもたらす効果の見える化

7 外部の専門人材・経営人材のスポーツ団体への流入促進

8 長寿命化社会の実現



スポーツ庁

1. 地域スポーツコミッションの活動支援 ・スポーツツーリズムの推進

スポーツツーリズム推進に向けた課題

「スポーツ基本計画」… スポーツ基本法（2011年公布・施行）に基づき、文部科学大臣が定める計画。第2期は2017～2021年度。

第1期基本計画

2020年
東京大会の
開催決定

障害者スポーツが
厚労省から
文科省へ移管

スポーツ庁の
創設

第2期
基本計画
策定

第2期基本計画

ラグビー
ワールドカップ

東京オリンピック・
パラリンピック
競技大会

ワールド
マスターズ
ゲームズ関西

2012 2013 2014 2015 2016

2018 2019 2020 2021

基本計画のビジョン（目指す姿）

- ・スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現
～国内外からの交流人口拡大による地域活性化、幅広い関連産業の活性化～
- ・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等を好機として、スポーツで人々が繋がる国民運動を展開し、レガシーとして「一億総スポーツ社会」を実現。

KPI 第2期スポーツ基本計画
(2017～2021年度)

◆スポーツ目的の訪日外国人数

138万人→250万人

◆スポーツツーリズム関連消費額

2,204億円→3,800億円

◆地域スポーツコミッション設置数

56団体→170団体

スポーツ庁・文化庁・観光庁が連携し
スポーツと日本の文化芸術資源を融合させた
「スポーツ文化ツーリズム」を推進。

海外から関心を集めているJAPOWや
日本発祥の「武道」等を活かし、日本への
関心・訪日意欲を喚起。

取り巻く環境

- ◆定住人口の減少が進む中、交流人口の拡大により人口減少分の経済消費を補うことが必要とされ、各地で国内外からの観光客誘致が図られている。
- ◆官民が一体となって「観光立国」「スポーツ立国」が推進されている。
- ◆訪日外国人旅行者の変化を踏まえ、観光庁は、モノ消費からコト消費へ、ゴールデンルートから地方への対応を進めている。

現状と課題

- ◆スポーツ大会・合宿の誘致や持続性のあるスポーツイベントの開催等により交流人口の拡大や地域・経済の活性化を推進している事例は全国的に増えている。
- ◆「スポーツツーリズム」への取組は、全国的な流れとなりつつあり、基本計画で掲げるKPIは概ね順調に推移。
- ◆地域にある魅力的な資源が十分に活用されていない。そもそも資源に気付いていない場合が多く、効果的なプロモーションが行われていないことも多い。
- ◆国際交流に関心はあっても、（スポーツ関係者の）ツーリスト誘客の意識はまだ低い。
- ◆ビジネスモデルが確立されていないため、効果的な事業展開が行われていない地域が散見される。
- ◇好事例を増やし、他地域への横展開を図る必要。
- ◇関係者に「スポーツツーリズム」や「誘客」といった意識を持ってもらう必要。
- ◇武道ツーリズムを推進する団体の設立を検討する必要。

スポーツツーリズムの需要拡大に向けた官民連携協議会での議論と、国内外の消費者を対象としたスポーツツーリズムに関わる動向やニーズについての調査では、課題やコンテンツの磨き上げの必要性は散見されるが、**日本の自然環境下で行う「アウトドアスポーツ」と「武道」の見学や体験は、日本の強みが活用でき、国内及び訪日個人旅行者の需要拡大に有望な分野**であるとされたことから、従来より取り組まれているスポーツイベントの開催・誘致や、スポーツ合宿・キャンプの誘致に加え、**この2つを新規重点テーマとして設定**する。

新規重点 テーマ①

【スポーツツーリズム】

スポーツの参加や観戦を目的として地域を訪れたり、地域資源とスポーツを融合した観光を楽しむツーリズムスタイル。

- ・スポーツイベント（参加型・観戦型）の開催や誘致
- ・スポーツチーム・団体の合宿やキャンプの誘致
- ・プロスポーツ・トップチーム等の観戦による誘客

現在主流であるこれらの分野についても、引き続き拡大に向けて取り組む。

世界に誇る日本の自然資源を活用した アウトドアスポーツツーリズム (するスポーツ)

- ・「スノースポーツ」、「登山・ハイキング・トレッキング」、「ウォーキング」をはじめ、国内外問わず実施意向が高い。
- ・最高の環境が地方部にあるため、地方部への誘客に繋がる。
- ・雪質や里山等、日本特有の自然資源・環境には海外からも高い関心が寄せられ一部地域には既に多くの外国人が訪れている。
- ・スポーツ庁では2017年6月に『アウトドアスポーツ推進宣言』を発表。体力や年齢に関わらず、誰もが実施しやすいスポーツジャンルであるため、国内のスポーツ実施率向上にも寄与。



写真提供：熊野市



写真提供：今治市



写真提供：長野県観光機構

新規重点 テーマ②

世界の関心が高い日本発祥・特有の 武道ツーリズム

(みる・するスポーツ)

- ・「武道（柔道・空手・剣道など）」、「大相撲」は、中国をはじめ各国で「みるスポーツ」としての意向が高い。
- ・空手をはじめ、武道は海外でも愛好者が多く、受入体制やコンテンツを整備することで、海外の愛好者・日本文化への関心が高い層に対し、発祥地である日本への関心・訪日意欲を喚起できると想定。
- ・スポーツ庁では2016年より文化庁、観光庁と連携し、スポーツと日本の文化芸術資源を融合させた「スポーツ文化ツーリズム」を推進。



写真提供：(公財)日本武道館

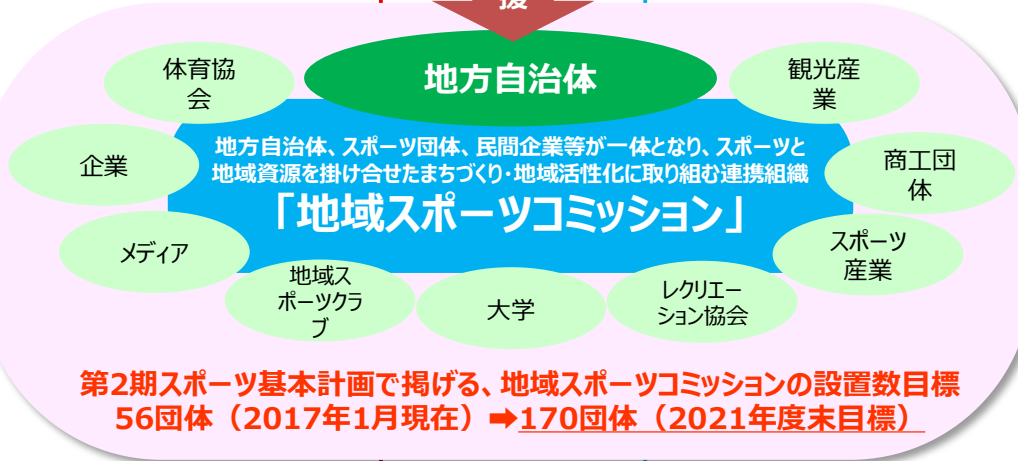
地方公共団体、スポーツ団体、民間企業（観光産業、スポーツ産業）等が一体となり、地域活性化に取り組む組織である「地域スポーツコミッション」等が行う、「**長期継続的な人的交流を図るスポーツ合宿・キャンプ誘致**」・「**通期・通年型のスポーツアクティビティ創出**」等の活動に対し引き続き支援を行い、**スポーツによる持続的なまちづくり・地域活性化**の促進を図る。
さらに、2019年度は、「**武道等を活用した新規コンテンツの創出**」を柱の1つに据えて支援を行う。

長期継続的な人的交流を図る 「スポーツ合宿・キャンプの誘致」

地域の気候・環境・施設や、2019・2020のメガスポーツイベント等に向け構築された連携体制等を活用し、長期継続的なスポーツチーム・団体の合宿・キャンプ受入を図る活動を支援。



支援



恒常的なスポーツ誘客が可能な 「通期・通年型スポーツアクティビティの創出」

自然環境を活かしたアウトドアスポーツや日本の独自性を活かした武道など、季節・年間を通じて体験可能なスポーツアクティビティやその受入体制を構築し、スポーツによる恒常的な交流人口拡大を図る活動を支援。



【地域への社会的効果】

- スポーツのまちとしてのアウトターブランディング、
- ローカルアイデンティティ・地域一体感の醸成
- 地域スポーツ人口・関心層の拡大
- 季節・年間を通じての誘客による、従事者の雇用安定

スポーツによる持続的な まちづくり・地域活性化へ

創出された優良事例を、
全国へ横展開

【地域への経済効果】

- 合宿参加者・スポーツツーリストの滞在に係る消費（宿泊・飲食・観光・物販など）
- スポーツアクティビティの参加料収入

2019年度のスポーツ庁の取組について

新規

武道・アウトドアスポーツをテーマとする 「スポーツツーリズムセミナー」を開催

- ・2017年度のマーケティング結果や2018年度のプロモーション結果等のエビデンスに基づき、国が地域や関係者に対し、**スポーツツーリズムに取り組む意義を発信**するとともに、**地域と企業等のマッチング機会を設ける**。
- ・スポーツ庁が、**武道ツーリズムセミナー（東京）を開催**するとともに、**各地域に出向き、セミナーや相談会を実施**する。スポーツツーリズムに取り組む地域の一体感の醸成やコンテンツ造成を促す。
- ・セミナーに合わせて**協議会参加企業等とのコラボイベントを検討**する。

【開催箇所】東京の他、全国複数箇所を予定

【内 容】実践者からの報告、先進事例や有用情報等の共有等

【対 象 者】地方公共団体、地域スポーツコミッション、武道関係者、民間事業者、マスコミ関係者 等



写真提供：今治市



写真提供：(公財)日本武道館



写真提供：宮崎県

検討

地域・関係者の様々な課題を解決する スポーツツーリズムの「モデル事業」を検討

- ・スポーツテーマ毎に全国ネットワーク団体（スポーツの振興やスポーツツーリズムの推進を目的として組織された団体）から課題をヒアリングし、地域・関係者が抱える課題を掘り起こし、その解決に向けて**モデル地域を選定し、複数年の継続した事業を実施**する。
- ・モデル地域の取組により得られた知見・成果は、**スポーツツーリズムに取り組む際のポイントとして整理し、手引き等にして、他の地域の取組の参考に供**する。
- ・**予算確保に向けて要検討**。

【テーマ例】サイクリング、ゴルフ、空手 等

【内容例】他地域・関係者との連携体制の構築、インバウンド受入体制の構築、効果的なプロモーション、ファミトリップやマーケティング調査の実施、一般参加型武道イベント等の開催 等



※ 別途、**武道ツーリズムを推進するための全国団体の設立を検討**する。

2018年度から継続して

「①スポーツコミッションを支援」「②官民連携プロモーションを展開」「③スポーツ文化ツーリズムを推進」

- ①2019年度は、これまで支援実績のない「**武道ツーリズム**」についても支援が行われるよう検討する。
- ②2018年度のプロモーション結果を踏まえ、**ターゲットを絞った更なるプロモーションやSNSの活用等、より効果的な手法を検討し実施**する。
- ③今後の有望な取組を発掘・表彰し、スポーツ文化ツーリズムの定着化を図るとともに、**国内外に向けた発信を強化**する。

継続
6



スポーツ庁

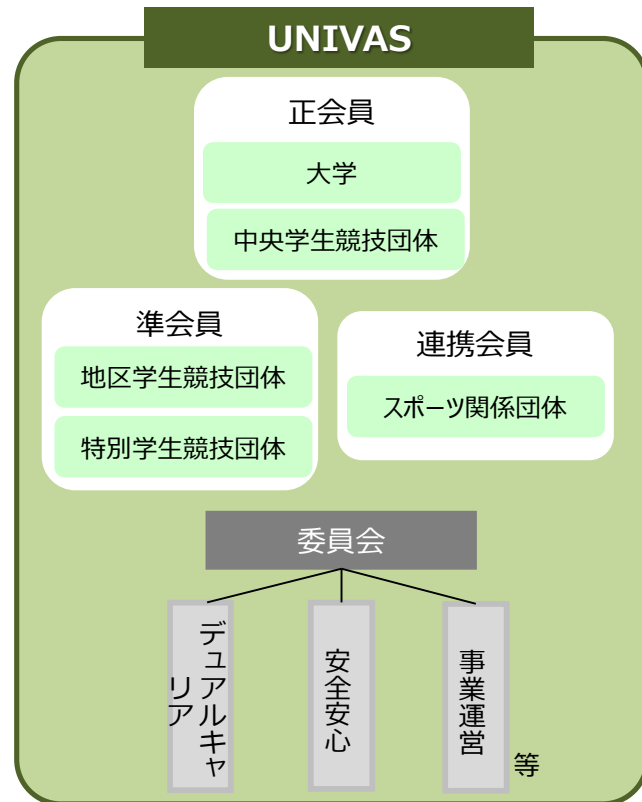
2. 大学スポーツの振興

我が国の大学スポーツの持つ潜在力（人材輩出、経済活性化、地域貢献等）を生かすため、大学スポーツに係る体制の充実を図る必要がある。そのため、平成30年度中に創設される**一般社団法人大学スポーツ協会(略称：UNIVAS)の組織の活動を支援**するとともに、**大学スポーツの活性化に全学的体制で取り組む各大学における専門人材の配置を推進し、先進的モデル事業を拡充**する。

UNIVAS: Japan Association for **U**niversity **A**thletics and **S**port

① 一般社団法人大学スポーツ協会 (UNIVAS) 活動支援事業 (予算額: 50,560千円)

UNIVASの各委員会における事業を執行するための実態調査費等、組織の活動を支援する。



② 大学スポーツアドミニストレーター配置事業 (予算額: 111,190千円)

大学スポーツの事業開拓やブランド力向上をはじめとした、大学スポーツの振興に係る取組をコーディネートする「**大学スポーツ・アドミニストレーター (S A)**」の配置を推進する。

大学スポーツ・アドミニストレーターの配置

各大学において全学的にスポーツ分野の取組を一体的に行う部局を持つ大学に、大学スポーツのブランド力向上を担う大学スポーツ・アドミニストレーターを配置する。

企画立案、コーディネート、資金調達を担う

学生アスリートのキャリア形成支援	大学スポーツを通じた地域貢献、地域活性化	スポーツ教育の推進	スポーツボランティアの普及啓発	収益力の向上に向けた取組
<ul style="list-style-type: none"> 学生アスリートへの学修支援やキャリア形成に配慮したプログラムの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治体や地元企業、スポーツ団体、地域住民等と連携した大学スポーツ施設の開放の在り方に関する連携体制の構築。 	<ul style="list-style-type: none"> 小中高の体育活動や運動部活動を支援する学生の派遣やプログラムの開発等の支援体制の在り方の実践研究。 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツボランティアの育成と普及啓発のための研修会の実施等。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康・食・観光・ファッション等の多分野と融合したスポーツイベントの開催等。

一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）組織概要

○組織名称

一般社団法人大学スポーツ協会

Japan Association for University Athletics and Sport (略称: UNIVAS)

○目的

この法人は、大学スポーツ(大学の教育、研究又は社会貢献の一環として行われる学生の競技スポーツ若しくはこれに類するものとして理事会で決定したスポーツをいう。以下同じ。)を総合的に振興し、学生の誰もが学業を充実させながら安全に競技スポーツを実践するための基盤的環境を整備するとともに、地域に根差す大学スポーツの多様な価値を高め、我が国の力強い発展と卓越性を追求する人材の輩出に寄与することを目的とする。

○役員(令和元年5月21日時点)

顧問 川淵 三郎、小宮山 宏、松浪 健四郎

代表理事／会長 鎌田 薫

理事／副会長 川原 貴、有森 裕子

専務理事 池田 敦司

常務理事事務局長 筱崎 隆広

理事 伊坂 忠夫、泉 正文、伊藤 亮介、小林 至、
小林 勝法、境田 正樹、戸田 芳雄、友添 秀則、
内藤 雅之、藤本 淳也、三宅 仁、山口 政俊

監事 生田 圭、大塚 則子



加盟団体一覧（令和元年5月10日時点）

大学(50音順)

計219大学

愛知大学／愛知学院大学／愛知学院大学短期大学部／愛知工業大学／愛知産業大学／愛知大学短期大学部／愛知東邦大学／愛知みずほ大学／青山学院大学／朝日大学／旭川大学／旭川医科大学／育英大学／育英短期大学／石巻専修大学／茨城大学／宇都宮大学／江戸川大学／愛媛大学／追手門学院大学／桜美林大学／大分大学／大阪大学／大阪教育大学／大阪経済大学／大阪工業大学／大阪国際大学／大阪成蹊大学／大阪体育大学／岡山商科大学／岡山理科大学／沖縄大学／小樽商科大学／お茶の水女子大学／香川大学／鹿児島大学／金沢大学／金沢学院大学／金沢学院短期大学／鹿屋体育大学／関西大学／関西国際大学／関西福祉大学／環太平洋大学／神田外語大学／関東学院大学／岐阜協立大学／岐阜聖徳学園大学／九州共立大学／九州国際大学／九州産業大学／九州保健福祉大学／共愛学園前橋国際大学／共栄大学／京都学園大学／京都産業大学／京都薬科大学／近畿大学／近畿大学九州短期大学／近畿大学短期大学部／熊本学園大学／久留米大学／皇學館大学／高知工科大学／高知大学／甲南大学／神戸医療福祉大学／神戸学院大学／神戸親和女子大学／國學院大學／国際武道大学／国土館大学／駒澤大学／埼玉大学／札幌国際大学／山陽小野田市立山口東京理科大学／至学館大学／至学館大学短期大学部／滋賀県立大学／四国学院大学／四国大学／静岡大学／静岡産業大学／至誠館大学／芝浦工業大学／順天堂大学／尚綱学院大学／城西国際大学／城西大学／尚美学園大学／上武大学／昭和学院短期大学／星槎大学／星槎道都大学／星城大学／西南学院大学／西武文理大学／清和大学／摂南大学／専修大学／仙台大学／創価大学／崇城大学／大正大学／大東文化大学／高崎健康福祉大学／高松大学／高松短期大学／拓殖大学／玉川大学／中央大学／中京大学／中京学院大学／中部大学／中部学院大学／帝京大学／帝京大学短期大学／帝京平成大学／電気通信大学／天理大学／桐蔭横浜大学／東海大学／東海学院大学／東海学院大学短期大学部／東海学園大学／東京海洋大学／東京学芸大学／東京経営短期大学／東京国際大学／東京歯科大学／東京女子体育大学／東京女子体育短期大学／東京都市大学／東京農業大学／東京薬科大学／東京理科大学／同朋大学／東北学院大学／東北工業大学／東北福祉大学／東洋大学／東洋学園大学／常磐大学／徳島大学／徳島文理大学／富山大学／豊岡短期大学／長崎国際大学／名古屋市立大学／名古屋学院大学／名古屋経済大学／名古屋工業大学／奈良学園大学／南山大学／新潟大学／新潟医療福祉大学／新潟経営大学／新潟食料農業大学／西日本工業大学／二松學舎大学／日本体育大学／日本ウェルネススポーツ大学／日本経済大学／日本女子体育大学／日本福祉大学／日本文理大学／日本薬科大学／白鷗大学／羽衣国際大学／八戸学院大学／阪南大学／東大阪大学短期大学部／東日本国際大学／姫路大学／兵庫大学／兵庫大学短期大学部／広島大学／広島経済大学／広島国際大学／広島修道大学／広島文化学園大学／びわこ成蹊スポーツ大学／福井工業大学／福岡大学／福岡工業大学／福岡工業大学短期大学部／富士大学／文教大学／平成国際大学／法政大学／北翔大学／北陸大学／北海道大学／北海道科学大学／北海道科学大学短期大学部／北海道教育大学／松本大学／松山大学／宮城学院女子大学／宮崎大学／武庫川女子大学／武庫川女子大学短期大学部／武蔵丘短期大学／明海大学／明治国際医療大学／名城大学／明星大学／桃山学院教育大学／桃山学院大学／山形大学／山口大学／山梨大学／山梨学院大学／四日市大学／立教大学／立命館大学／龍谷大学／早稲田大学

競技団体(法人格の有無に関係なく、法人名において50音順)

計31団体

少林寺拳法連盟／全日本学生アーチェリー連盟／全日本学生カヌー連盟／全日本学生空手道連盟／全日本学生柔道連盟／全日本学生スキー連盟／全日本学生テニス連盟／全日本学生ハンドボール連盟／全日本大学ソフトボール連盟／全日本大学バスケットボール連盟／全日本大学バレーボール連盟／全日本大学野球連盟／全日本なぎなた連盟／全日本レスリング連盟／日本アメリカンフットボール協会／日本ウエイトリフティング協会／日本オリエンテーリング協会／日本学生航空連盟／日本学生ゴルフ連盟／日本学生サーフィン連盟／日本学生ソフトテニス連盟／日本学生ホッケー連盟／日本学生ライフル射撃連盟／日本水泳連盟／日本スポーツチャンバラ学生連盟／日本トライアスロン連合／日本馬術連盟／日本フライングディスク協会／日本ボート協会／日本ボクシング連盟／日本ラグビーフットボール協会

連携会員

計3団体

日本拳法競技連盟／日本オーストラリアンフットボール協会／日本ラクロス協会

※UNIVASの「創立メンバー」は、4月26日までに入会申し込みのあった大学・団体としている

大学スポーツの振興により、「卓越性を有する人材」を育成し、大学ブランドの強化及び競技力の向上を図る。もって、我が国の地域・経済・社会の更なる発展に貢献する。

学業充実

- 「学修機会確保に関する優秀取組賞」等の表彰を実施します。
- 入学前教育の推奨プログラムを提示することで、希望大学におけるプログラム策定を支援します。
- 大会日程を集約したUNIVASカレンダーを策定します。
- 学業基準の導入可能性を検討するための実証事業を行います。

安全安心

- 暴力・体罰、ハラスメント等に関する相談窓口をUNIVASに設置し、事案の解決に協力します。
- 指導者等の資質向上のための指導者研修を各地域で実施します。
- **全国で開催されている大会に医療事業者確保のための取組（メディカルサービスの提供）を支援します（約400日相当）。**
- 全ての競技に共通する安全・安心のルールをガイドラインとして策定・普及します。

事業マーケティング

- UNIVAS公式サイトにおいて、地区大会も含めた約600試合の映像配信を行います。
- ポイント制を用いた競技横断的の大学対抗戦を開催します。
- 地区大会における大会運営への助成を行います。
- 「スポーツマンシップ賞」、「スポーツ統括部局/SA賞」等の表彰を実施します。
- 大学における学内整備のための手引書を策定します。

平成30年度大学スポーツ振興の推進事業選定大学一覧

	大学名	取組の具体例
1	関西大学	<ul style="list-style-type: none"> ・「KSAP(※)」の実践による学生アスリート向けキャリア形成支援 ・大学スポーツアドミニストレーターの導入を含むスポーツ分野統括組織の強化 ※KAISERS Student-Athlete Program
2	国際武道大学	<ul style="list-style-type: none"> ・既存分掌型組織の枠組みを超えた横断的連携によるレイヤー型スポーツ局の設置 ・オルカ鴨川FC(なでしこリーグ)と女子サッカー部の連携を軸とした地域活性化
3	国士舘大学	<ul style="list-style-type: none"> ・国士舘スポーツプロモーションセンターの設立 ・大学スポーツの安全・安心の確立に資するプラットフォーム構築事業 ・スポーツ倫理への取り組みに関する実態調査と指導プログラムの開発
4	仙台大学	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ局設置によるスポーツ活性戦略の立案推進とスポーツ領域の統括 ・ホーム&アウェイ型試合の試験的実行とスポーツボランティア普及啓蒙活動
5	東京国際大学	<ul style="list-style-type: none"> ・国際スポーツアドミニストレータ育成の推進 ・国際経験豊富なスポーツ指導者によるスポーツ教育とネイティブ教員による品格ある英語教育の推進
6	新潟医療福祉大学	<ul style="list-style-type: none"> ・アルビレックスグループと連携した人材育成 ・障害者スポーツ(陸上及び車いすバスケットボール)のさらなる振興
7	法政大学	<ul style="list-style-type: none"> ・学生アスリートのキャリア形成支援の強化 ・社会人向け履修証明プログラム「健康とスポーツ」の開設
8	武庫川女子大学	<ul style="list-style-type: none"> ・大学スポーツを通して、学生アスリート・サポーター・地域店舗の3者を繋ぐコミュニティーの形成 ・地域児童に対する多種目体験事業の実施 他
9	山梨学院大学	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨学院カレッジスポーツセンター統括組織・業務分野の再整備 ・YGUスポーツを活用した産学官連携事業の検討 ・本学クラブ活動の評価システムの構築・検討(表彰制度創設の検討)

平成30年度大学スポーツ振興の推進事業選定大学一覧

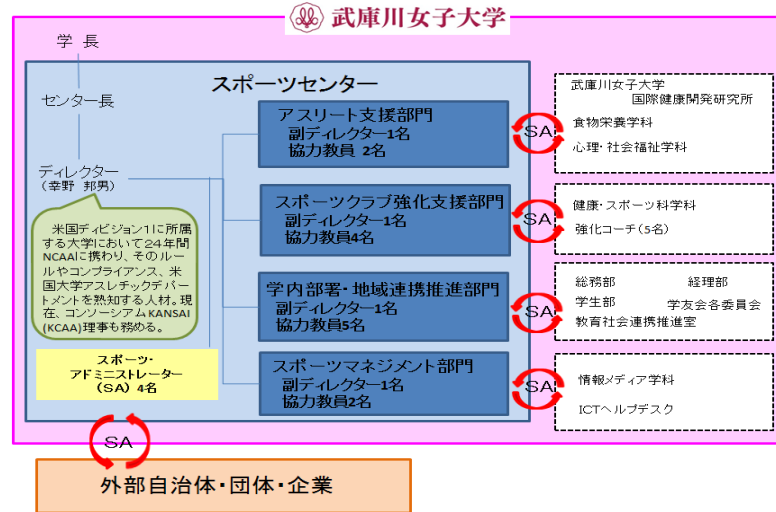
	大学名	取組の具体例
10	大阪体育大学	<ul style="list-style-type: none"> ・学生アスリートのデュアルキャリア支援体制の検討と研修プログラムの企画・開発 ・大学スポーツ振興と自治体と連携・協働した 地域貢献、地域活性化の施策の検討
11	鹿屋体育大学	<ul style="list-style-type: none"> ・大学と地域がともに取り組む地域密着スポーツブランドのロゴ作成 ・地域密着スポーツブランド浸透イベントの実施による大学と地域の一体感の醸成
12	順天堂大学	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピック教育の推進に向けたパラスポーツ体験会の実施 ・学生ボランティア組織の整備とパラスポーツの指導法の研究と情報発信
13	筑波大学	<ul style="list-style-type: none"> ・大学スポーツの数値化(KPI策定)と安全・安心プログラムの開発 ・アスレチック部門の発信プラットフォームの整備と広報の開始
14	日本体育大学	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ間の連携による相互応援文化の創成と定着 ・大学スポーツにおける寄付プログラムのモデル構築
15	立命館大学	<ul style="list-style-type: none"> ・大学スポーツの振興に向けた関西圏の大学、競技横断的な組織基盤(KCAA※)の整備 ・スポーツ活動と学業の両面の高度化に資する取り組み(SSP※)の推進

※1 KCAA:一般社団法人大学スポーツコンソーシアムKANASI(Kansai Collegiate Athletic Alliance)の略称、現在21の大学が加盟

※2 SSP:学生支援プログラムとなるStudent Success Programの略称

大学スポーツ振興の推進(武庫川女子大学の取組)

(1) スポーツ分野の統括業務の実施



(2) 「大学スポーツ・アドミニストレーター」の配置

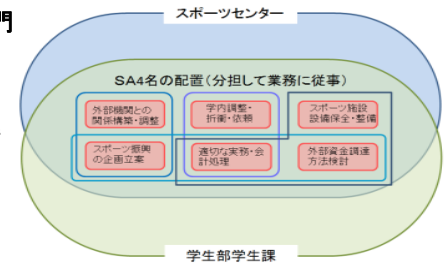
2017年2月、スポーツセンター設置
2017年4月、スポーツ・アドミニストレーター2名配置

クラブ強化支援事業、スポーツ奨学制度運用、プロコーチ制度運用、スポーツクラブ武庫女地域貢献事業に関する業務がスポーツセンターへ移管・集中

2018年4月、スポーツ・アドミニストレーター4名配置

《スポーツ・アドミニストレーターの専門性》

- ①外部機関との関係構築・調整
- ②企画実施に伴う学内調整・折衝
- ③スポーツ施設・設備等の保全・整備
- ④スポーツ振興にむけた企画立案
- ⑤外部資金調達方法の検討
- ⑥法令・諸規則に則った適切な実務処理



(3) 大学スポーツにおける先進的モデルの企画・立案及び実施

① 学生アスリートのキャリア形成支援事業

I 学生アスリートアワード表彰制度の充実

- ・チーム表彰枠の追加
- ・表彰対象を低学年中心に

II 自習支援体制の充実

- ・事前面談、取組課題設定
- ・チューター配置

III 長期遠征・長期欠席者の学修支援方法の確立

- ・WEBアプリを用いた学習フォローシステムの充実
- ・タブレット貸出
- ・学生モニターへの調査

② 大学スポーツを通じた地域貢献、活性化事業

I LAVYS Nationプロジェクト

大学スポーツを中心としたスポーツ・コミュニティー「LAVYS Nation」を形成する。



II キッズスポーツパーク武庫女プロジェクト

- ・大学施設における多種目体験(キッズスポーツパーク武庫女)
- ・体力測定会、個別相談会
- ・中学進学時のクラブ種目選択の助言
- ・トレーニング方法等の助言

③ スポーツ教育の推進事業(応援文化定着促進)

- ・ホームゲームの開催
- ・応援Tシャツデザインコンテストの実施
- ・ホームゲーム動画制作

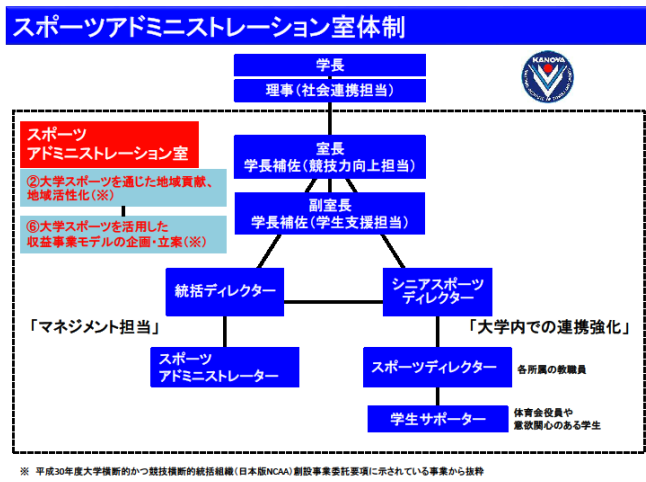
↓
一般学生の関心を高め、試合会場への来場を促進する



大学スポーツ振興の推進（鹿屋体育大学の取組）

○大学スポーツ分野の統括業務の実施

スポーツアドミニストレーション室は、学長と理事（社会連携担当）が総括し、室長及び副室長を含め16名で構成される。



○先進的モデルの企画・立案及び実施

(1) ブランドロゴの作成事業

本事業では「ブランドロゴ」の作成を目指し地域住民から支持されるロゴの作成を目指す。地域とともに作り上げる大学スポーツブランドの確立は、地域住民を含む多くの人々のためのシンボルを創設することであり、地域の一体感や活性化を促す「ビジュアルアイデンティティ」となる。

(2) ブランド浸透イベント

1) 学内施設の市民開放事業

地域イベントの大学内開催: かのやスポーツフェスタ等
ランチバイキング: スポーツに興味のない住民の取り込み

2) スポーツボランティアによる社会貢献

これまで大学が実施してきた社会貢献活動(スポーツボランティア、スポーツ指導者派遣等)を創設したブランドロゴを通じて市民に広く告知する

3) ランチトーク

同じ学生間でもお互いのことをよく知らないことが多く、それぞれに紹介し合える場を設け、情報共有の実現を図る。地域住民や外部者を招聘した講演等の実施

4) カレッジスポーツデイの開催

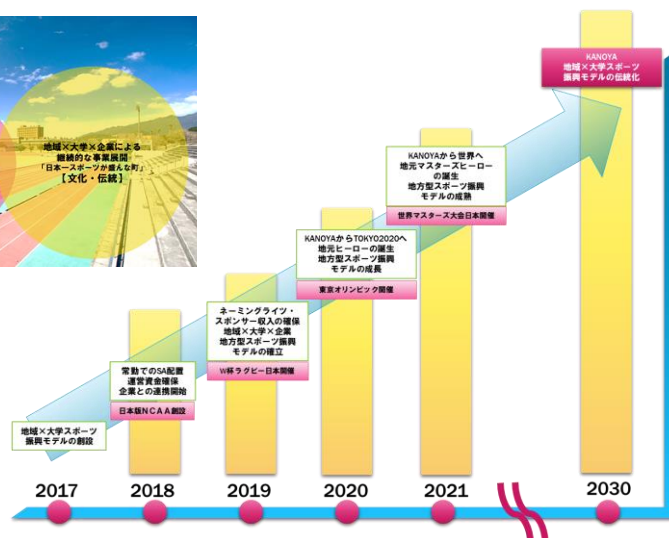
大学スポーツチームの公式試合を地域イベントに合わせて開催する

○事業の継続的实施に向けた計画立案

本事業は単年で行われるものであるが、大学スポーツの推進事業については本事業を機に継続的に実施していかなくてはならない。そのための年次計画を立案し、継続的かつ安定的に大学スポーツ推進事業を展開していく。

2018年度: 創設されたブランド「BLUE WINDS」を活かしブランド事業を展開する。また、スポーツアドミニストレーターを大学内および鹿屋市役所に配置し、地域イベントに合わせたカレッジスポーツデイの企画運営、企業等との連携を実施し、事業運営費の確保に努める。さらに、鹿屋市ふるさとPR課と連携し、ふるさと納税を活用した資金調達モデルの検討も開始する。

2019年度: 九州地区においてもラグビーワールドカップが実施されるため、わが国におけるスポーツに対する認知度がさらに向上することと思われる。本学のシーズを活かし、スポンサー収入等による資金確保策や、事業運営費の安定化を図る方法を検討する。





スポーツ庁

3. スタジアム・アリーナ改革

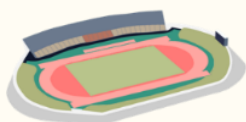
スタジアム・アリーナ～スタジアムを核とした街づくり～

目標・KPI等

- ◆ 全国のスタジアム・アリーナについて、多様な世代が集う交流拠点として、2017年から2025年までに20拠点を実現する。

取組状況

現状



単機能型 → 多機能型
行政主導 → 民間活力導入
郊外立地 → 街なか立地
低収益性 → 収益性改善

目指す姿



「スマート・ベニュー®」(株) 日本政策投資銀行

スタジアム・アリーナの定義

- 数千人から数万人の観客を収容する集客施設
- スポーツを観ることを主な目的とした施設

コストセンターからプロフィットセンターへ

- 地域住民がスポーツをする施設とスタジアム・アリーナを区別。観客の利便性やチームの営業活動を重視。
- 施設の収益性の向上による公的負担の軽減
- にぎわいの創出や持続可能なまちづくりの実現等、投資以上の効果を地域にもたらすことがプロフィットセンター
- 事業方式や資金調達の検討を通じ、施設・サービスの充実・向上

スタジアム・アリーナ改革による地域への効果

- 地域のシンボル
 - ・民間ノウハウの活用と収益性の確保
 - ・サステナブルな施設として長期的に存続
- 新たな産業集積の創出
 - ・周辺産業への波及を含む経済効果、雇用創出
 - ・スポーツチームがあればより継続的に
- 地域への波及効果を活用したまちづくり
 - ・まちの賑わいの創出
 - ・地域住民のスポーツ機会の増加
 - ・社会貢献活動や啓発等の社会問題の解決
- 地域の持続的成長
 - ・地域のアイデンティティの醸成
 - ・地域の不動産価値の向上

各地域で進んでいるスタジアム・アリーナ改革の事例紹介

“北海道のシンボル”となる空間創造

地域：北海道北広島市共栄（きたひろしま総合運動公園（予定地））
スポーツ：北海道日本ハムファイターズ（野球）

特徴：食とスポーツを有機的に融合させることで健康を育み、道民・市民・ファンが愛着と誇りを持つ施設を目指す。

開業：2023年3月開業（予定）



●選手のパフォーマンスが最大限活かされる新球場を核に、国際競争力を有するライブ・エンターテインメント、として『世界がまだ見ぬボールパーク』を目指す。

（出典：日本ハム株式会社公式ホームページ）

長崎県の新たなランドマークへ

地域：JR長崎駅から近い、長崎市内の三菱重工業工場跡地

スポーツ：V・ファーレン長崎（サッカー）

特徴：『「長崎を生きる楽しさ」を！』事業コンセプトに、「住む・働く・遊ぶ・学ぶ・憩う」が融合したユニークなまちづくりへ。周辺にホテル、オフィス等も整備する構想。

竣工：2023年（目標）



●跡地の再開発イメージ



●サッカースタジアムのイメージ

（出典：ジャパネットホールディングス）

1万人規模の多目的アリーナ

地域：沖縄市コザ運動公園内

スポーツ：琉球ゴールデンキングス（バスケットボール）

特徴：「モノ消費」から「コト消費」への転換を目指した「観せる」施設として整備。沖縄の地理的優位性を活かし、東アジアの拠点へ。

竣工：2020年度（予定）



●アリーナの内観イメージ(コンサート時)



●アリーナの内観イメージ(バスケットボール)

（出典：沖縄市）



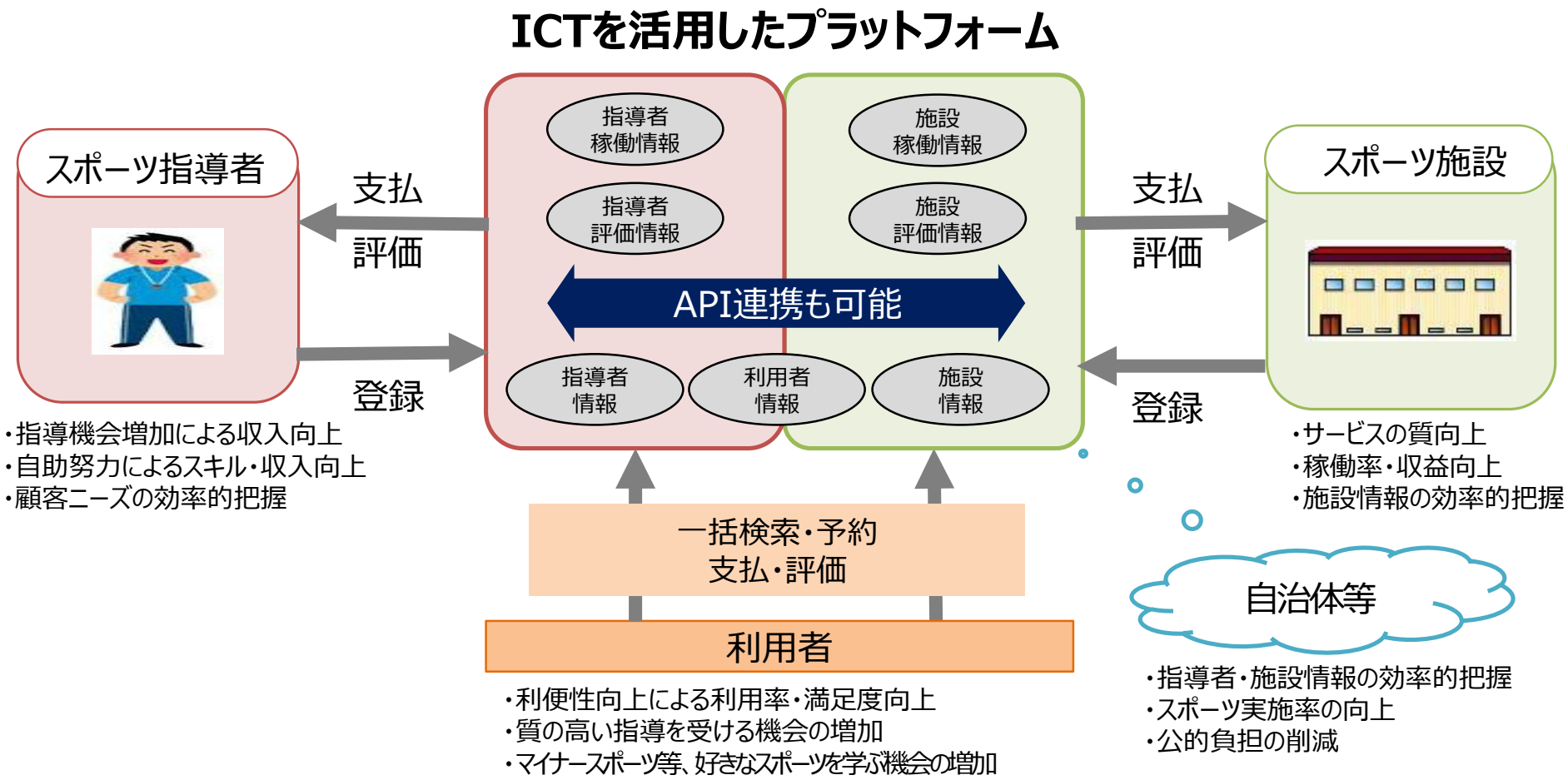
スポーツ庁

4. スポーツスペースと スキルのシェアリングエコノミー

スポーツ指導者と施設のシェアリングエコノミー実現に向けた取組

地域の指導者を主体としたスポーツエコシステム構築推進事業

1. ガイドライン骨子の策定（施設・指導者情報整備の方向性等）
2. 先進モデル形成支援（平成30年度：2事業）



(公的スポーツ施設)

- 利用まで1週間をきった施設予約率は平均3%以下。(調査期間：2018年10月～12月)
- 指導者の需要はあるが、指導者を探すことが困難。また、一定レベルの講師に依頼すると採算が困難。

(民間スポーツ施設)

- 3,000円～9,000円/時間でも、空き時間を活用したパーソナル・少人数トレーニングの需要は大きい。

空き時間の可視化

▷ 清瀬内山運動公園 サッカー場C面



2019/03/13 (水)

時間	金額
11:00～13:00	5,800円

2019/03/14 (木)

時間	金額
09:00～11:00	5,800円
11:00～13:00	5,800円

2019/03/15 (金)

時間	金額
09:00～11:00	5,800円
11:00～13:00	5,800円

戻る

▷ 下宿地域市民センター 第一会議室



2019/03/13 (水)

時間	金額
13:00～17:00	700円
18:00～22:00	900円

2019/03/16 (土)

時間	金額
09:00～12:00	500円
13:00～17:00	700円
18:00～22:00	900円

戻る

スポーツ指導者・施設情報オープン化による更なる可能性

- 日本が有する豊富なスポーツ資源情報をオープン化することが、訪日外国人の経験価値向上、新たなインバウンド獲得に貢献する可能性。
- 日本のベンチャー企業が中国からのインバウンドを獲得するため、平成30年8月に静岡県西伊豆で、子供は野球場等で日本の子供と一緒に野球や文化を学び、大人は観光地を周遊するモデル事業を実施。

(日本の指導者から野球を学ぶ)



(日本の子供10名と中国の子供5名が交流)



(出典 株式会社GACO)



スポーツ庁

5. スポーツオープンイノベーション プラットフォーム (SOIP)

スポーツオープンイノベーションプラットフォーム (SOIP)

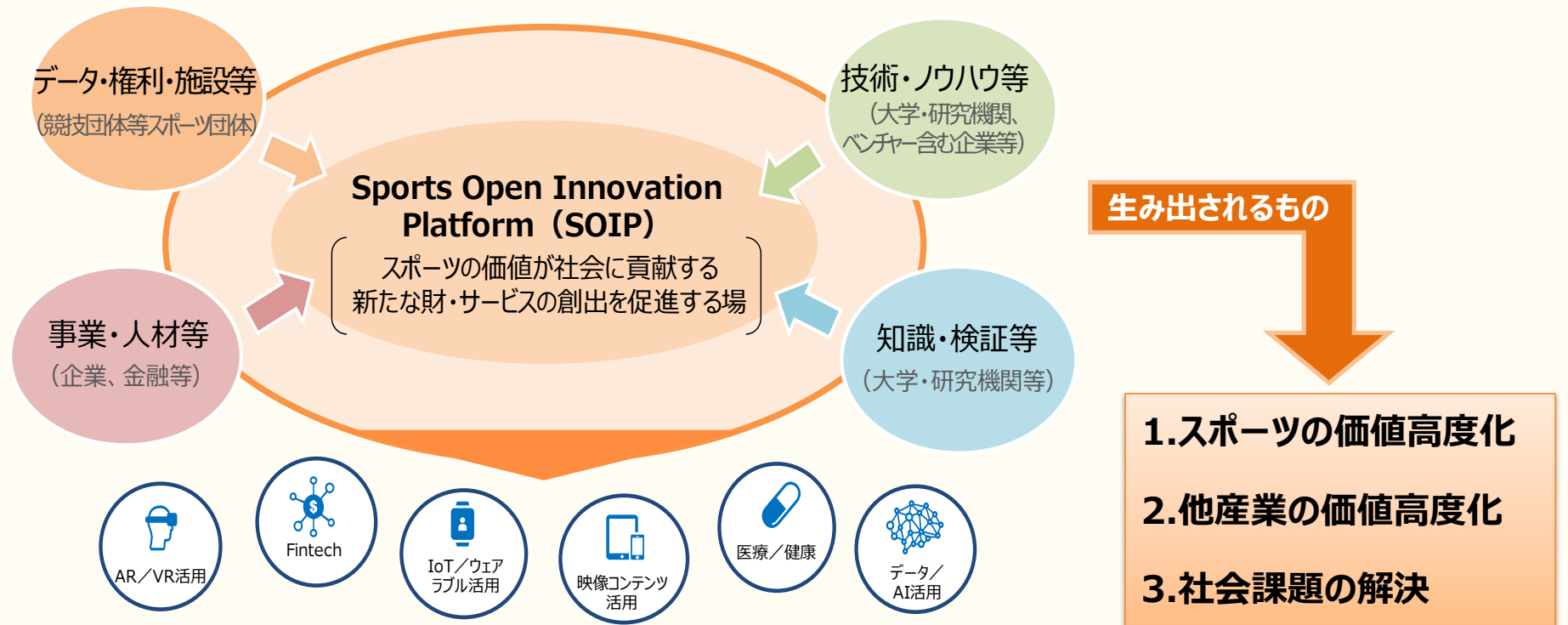
目標・KPI等

◆ スポーツオープンイノベーションプラットフォーム (SOIP) 構築の推進

取組状況

スポーツの場におけるオープンイノベーション推進によるスポーツへの投資促進

- スポーツ団体が有するデータ・権利・施設等のオープン化及び大学・研究機関、企業等有する技術・ノウハウ等のスポーツの場における活用促進
- アクセラレータープログラムや実証事業など新たな財・サービスの開発促進



日本国内で進むSOIP構築に向けた動き

地方公共団体主導

埼玉県：
イノベーションリーダーズ育成プログラム



(出典：埼玉県)

大阪市：
舞洲プロジェクト



(出典：大阪市)

仙台市：
エンターテックアイデアソン

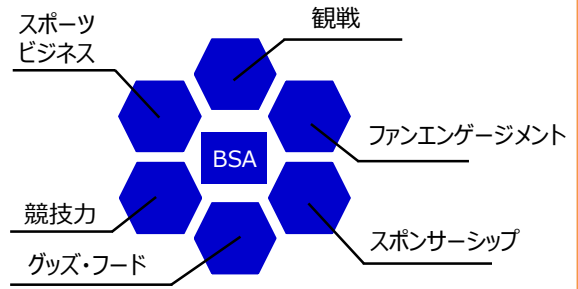


選ばれたアイデアはスタジアムor仙台市街で実証実験

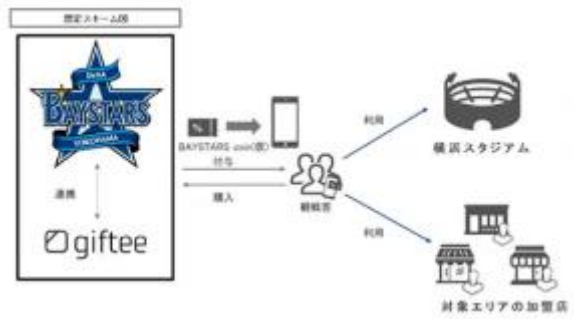
(出典：仙台市)

スポーツチーム主導

横浜DeNAベイスターズ：
BAYSTARS Sports Accelerator



- 2017年12月に募集を開始し、2018年5月に第1期プログラム参加企業として株式会社ギフティを決定。
- 地域経済活性化を目指した電子地域通貨サービスの開発を検討。



(出典：横浜DeNAベイスターズ)

民間企業主導

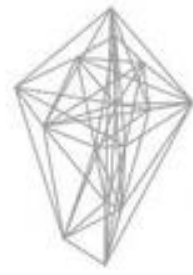
中部ニュービジネス協議会等：
名古屋グランパス×スタートアップピッチ



主催：中部ニュービジネス協議会
名古屋商工会議所
NAGOYA GRAMPUS
× Startup Pitch

(出典：中部ニュービジネス協議会)

株式会社電通：
SPORTS TECH TOKYO



**SPORTS
TECH
TOKYO**

(出典：株式会社電通)



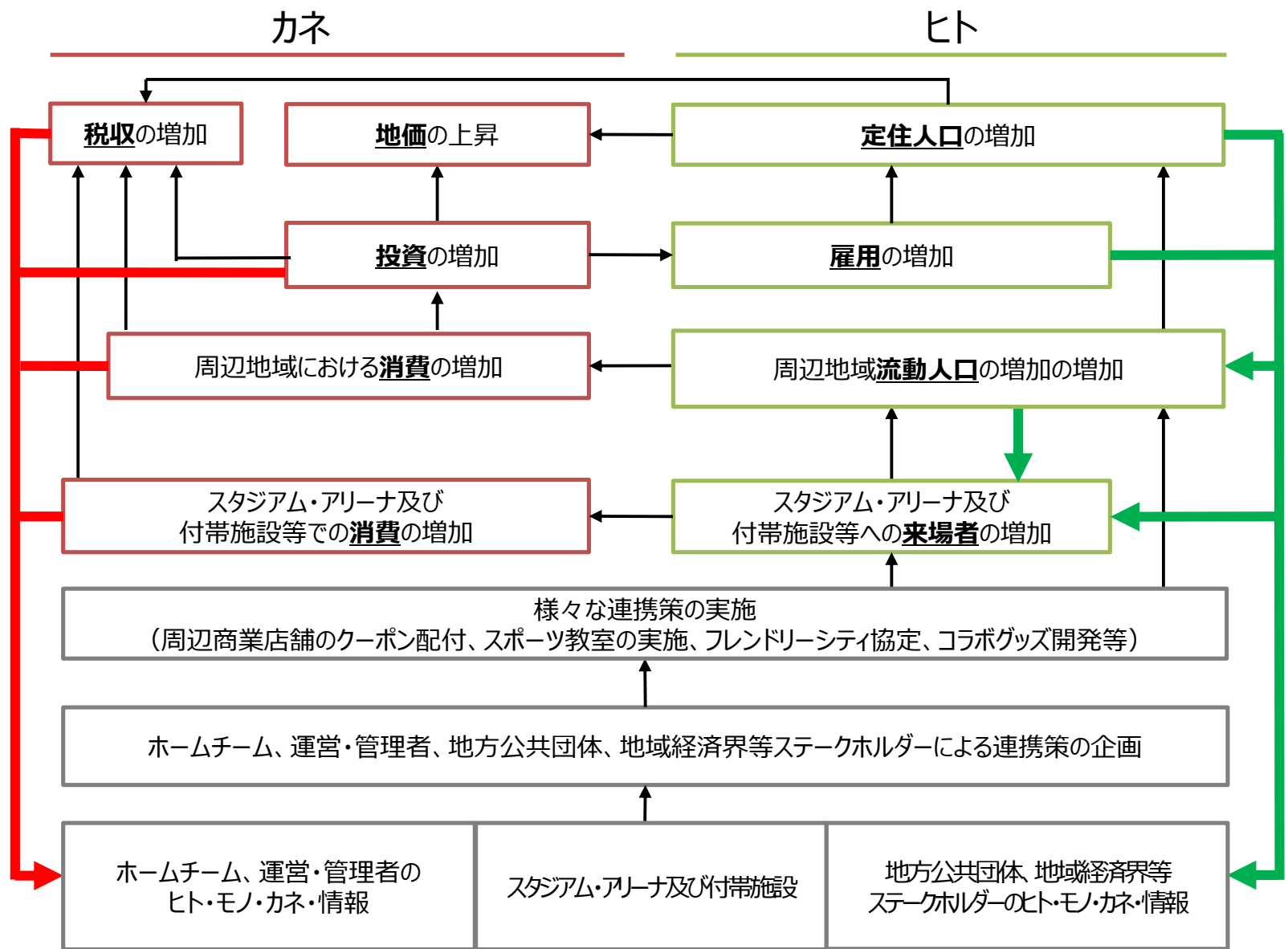
スポーツ庁

6. スポーツ資源がもたらす効果の見える化

スポーツチーム等が地域にもたらす経済的効果

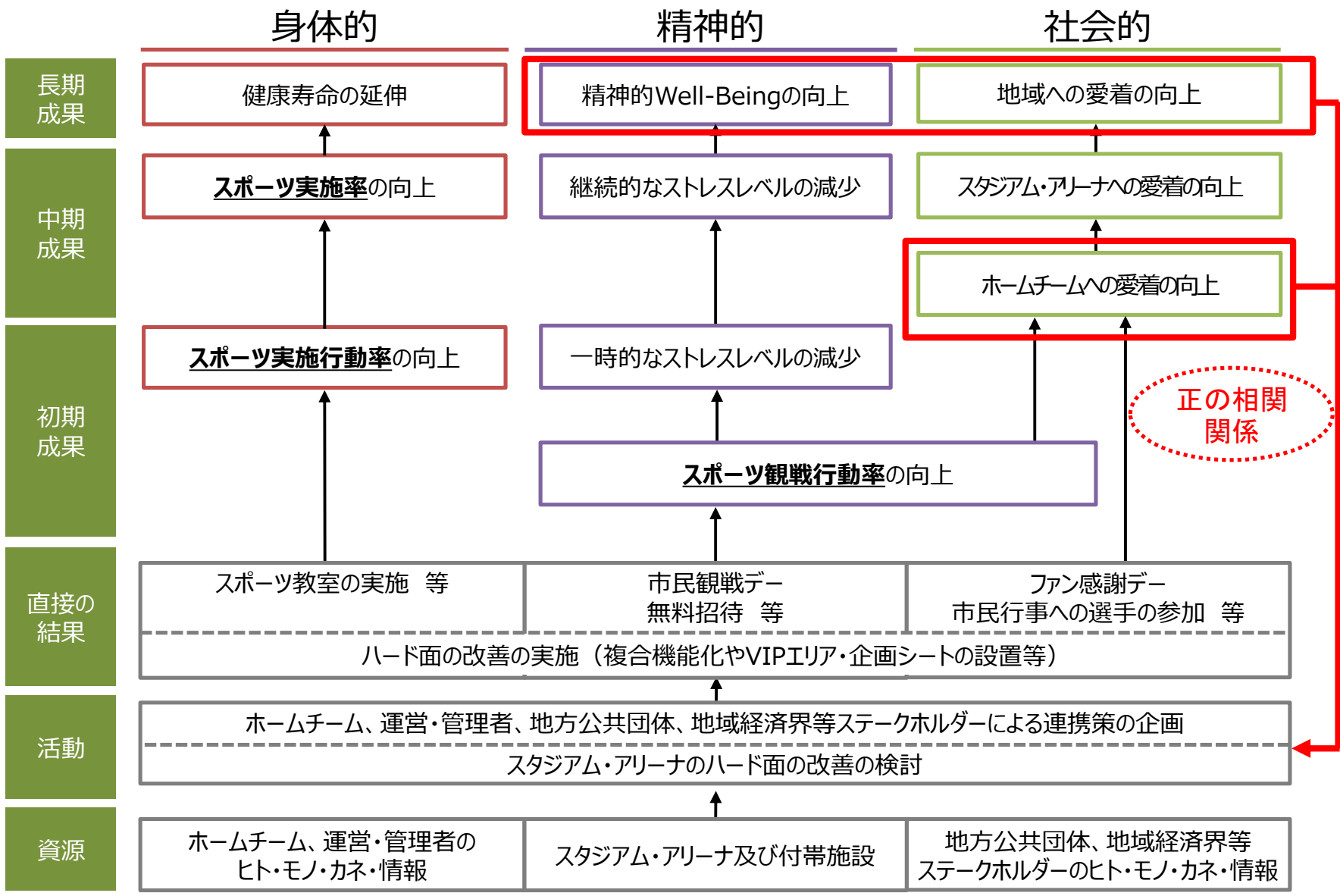
スタジアム・アリーナ
周辺地域
スタジアム・アリーナ自体

長期成果
中期成果
初期成果
直接の結果
活動
資源



スポーツチーム等が地域にもたらす社会的効果

スタジアム・アリーナ
周辺地域
スタジアム・アリーナ自体

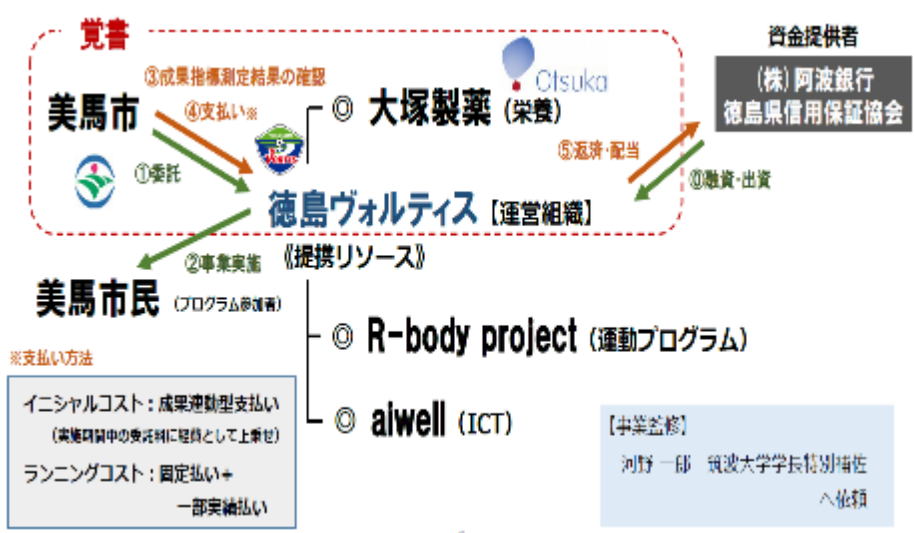


スポーツ資源がもたらす効果見える化による新たなビジネス創出

- 住民の健康増進・改善にスポーツ界が有している資産を活用する取組が広がりつつある。
- 自治体が自主財源で実施する成果連動型契約と外部資金も活用するSIBの取組がある。

スポーツを活用した健康増進の取組① (SIBの活用)

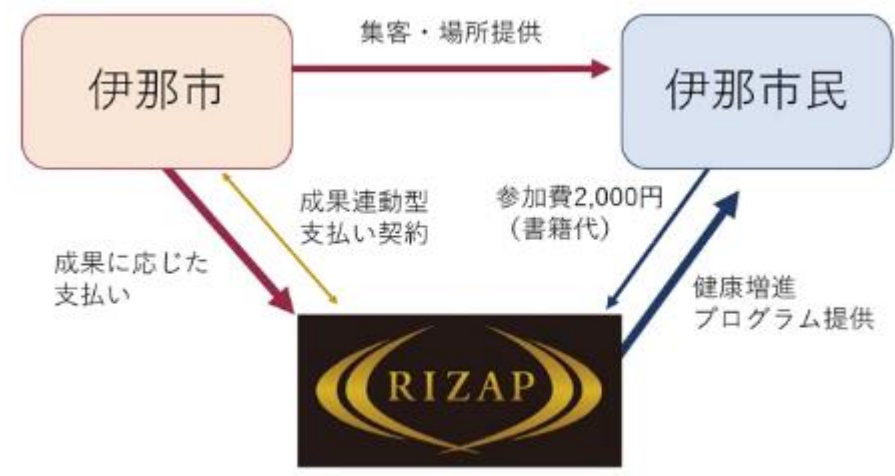
- ・徳島県美馬市と大塚製薬（株）、徳島ヴォルティス は、美馬市版SIBを2019年度から実施予定。
- ・徳島ヴォルティスコーチによる市民向け運動プログラム等を実施し、運動習慣や運動器に係るチェック項目の改善度合いに応じて対価が支払われるもの。



(出典：徳島県美馬市)

スポーツを活用した健康増進の取組② (成果連動型契約の活用)

- ・長野県伊那市は、RIZAP（株）と成果連動型契約を締結。住民（60代）に3か月の「健康増進プログラム」を提供し、市は体力年齢改善と医療費削減の結果に応じて成果報酬を支払うもの。
- ・参加者約90%の体力年齢が、10歳以上改善。



(出典：RIZAP株式会社)



スポーツ庁

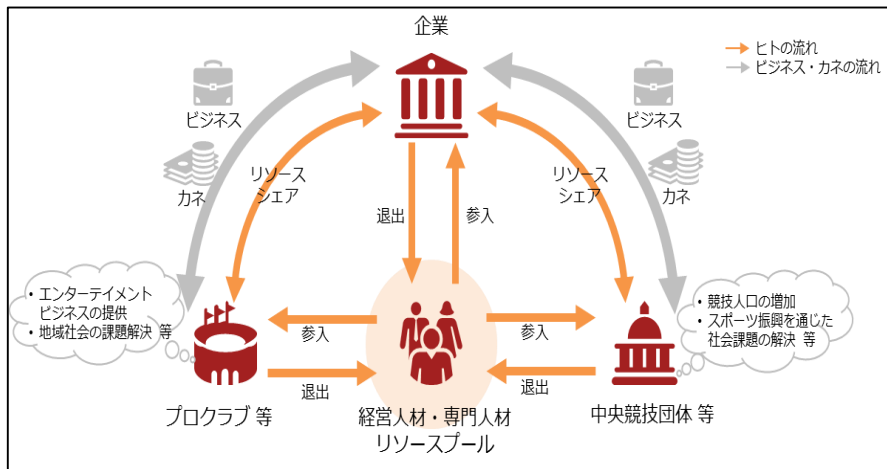
7. 外部の専門人材・経営人材の スポーツ団体への流入促進

経営人材のスポーツ団体への流入促進

スポーツ界内外の人材の流動性を向上させることにより、スポーツの価値の創造や向上の主体者であるスポーツ団体・チームにマーケティングやIT等の専門家や、経営人材を流入させ、スポーツ団体等の経営力強化を図る必要がある。

(事業概要)

- スポーツ庁では、スポーツ団体・チームが外部の専門人材や経営人材を採用活用する際に必要なプロセスや考慮すべきポイントを取りまとめて公表予定。



(出典：スポーツ庁)

地域のスポーツ団体へのプロ経営人材の流入（副業・兼業含む）

民間企業におけるビジネススキルをスポーツ団体で活かしたいと考える経営人材や専門人材について、副業・兼業を含めたスポーツ団体での採用・定着を推進する。地域のスポーツ団体が都心部の経営人材の転出先の1つとなる可能性。

(具体例)

- FC今治では、スポーツ業界に魅力を感じる首都圏のプロ人材を採用するため、執行役員をビズリーチで公募
- 執行役員1人公募に970人の応募殺到 ※引用：スポーツ報知

The screenshot shows a job posting on the BIZREACH website. The header includes 'BIZREACH' and navigation links like 'マイページ', '職務経歴書', 'メッセージ', '求人検索', 'ヘッドハンター検索', and '公募/フィード'. The main content is for '株式会社今治、夢スポーツ' (Imari Football Club). It features the club's logo and the text: 'スポーツビジネスで世界を変える。FC今治の運営会社が執行役員を募集' (Changing the world with sports business. FC Imari's operating company is recruiting executive officers). Below this, it provides details about the club's establishment in 2012 and its 2017 season, and mentions that the executive officer recruitment has ended. The recruitment period is listed as December 21, 2017 (Thursday) to January 17, 2018 (Wednesday).

(出典：株式会社ビズリーチHP)



スポーツ庁

8. 長寿命化社会の実現

わが国におけるスポーツ実施率の向上を図る必要性

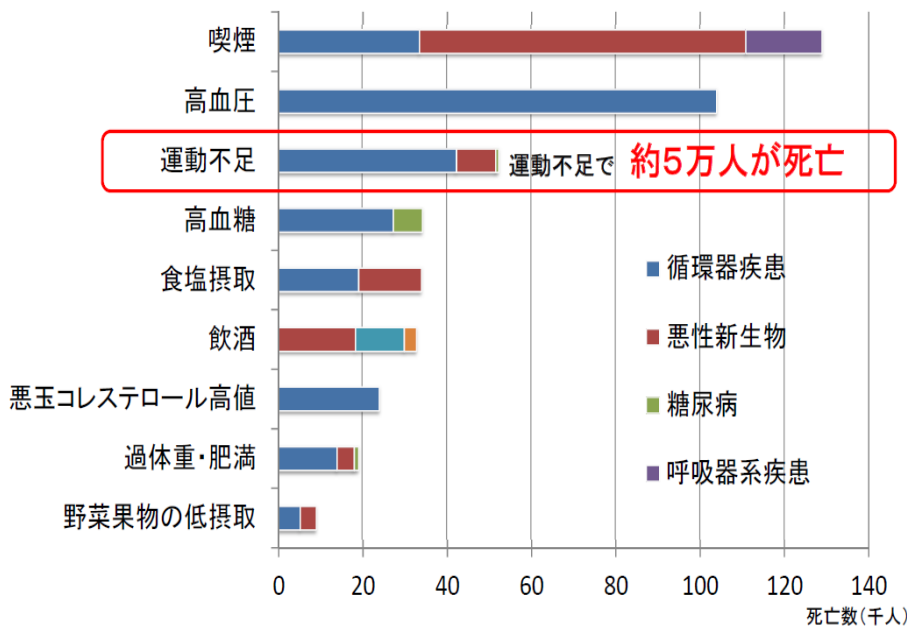
○わが国では、**運動不足が原因で毎年5万人が死亡**。

→適度な運動・スポーツを習慣化させることによって、**運動不足を原因とする死亡者数を減少させることが可能**と考えられる。

○わが国は、男女ともに平均寿命が80歳を超える長寿国であるが、**平均寿命と健康寿命の差は10歳前後を保ったままである**。健康寿命延伸のためには、**要介護状態になることを予防する必要がある**。適度な運動・スポーツの実施により、**ロコモ・フレイル状態はもとより、生活習慣病予防にも寄与する**。

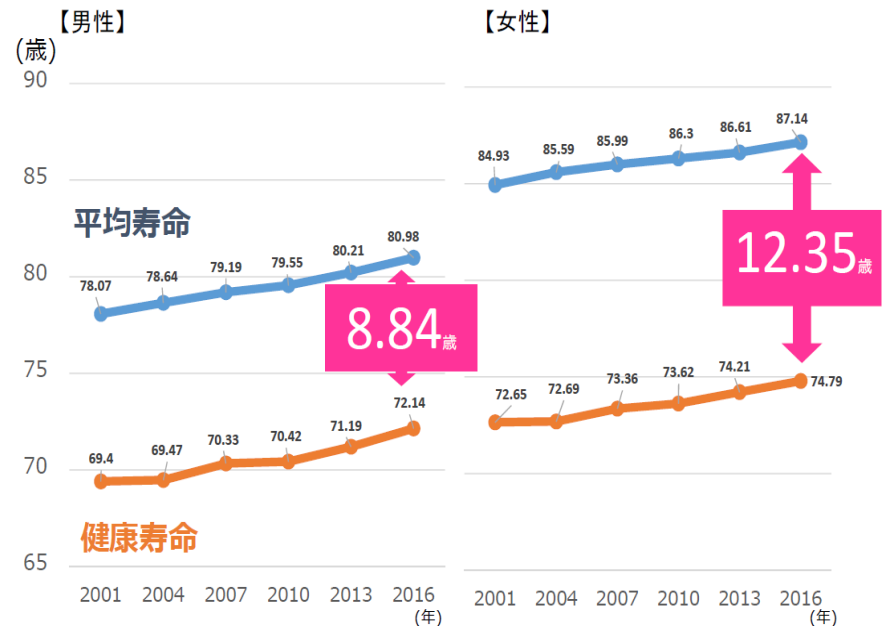
ロコモ・・・ロコモティブシンドローム（運動器症候群）のことであり、運動器の障害のために自立度が低下し、介護が必要となる危険性の高い状態。
フレイル・・・加齢とともに心身の活力（運動機能や認知機能等）が低下し、複数の慢性疾患の併存などの影響もあり、生活機能が障害され、心身の脆弱性が出現した状態。

2007年の我が国における危険因子に関連する非感染症疾病と外因による死亡数



(出典):厚生労働省 THE LANCET 日本特集号(2011年9月)日本:国民皆保険達成から50年「なぜ日本国民は健康なのか」

平均寿命と健康寿命の推移



(出典):厚生労働省「第11回健康日本21(第二次)推進専門委員会資料」(平成30年3月9日)

スポーツ・身体活動による健康増進・医療費抑制効果について

- 企業や地方自治体におけるスポーツの習慣化を促す取組の中には、限定的な範囲ではあるものの、実施後に医療費抑制効果が見られたものもある。今後、同様の取組の横展開を図ることで、さらなる効果が期待できる。

(出典)：文部科学省「平成26年度スポーツ政策調査研究（スポーツの経済効果に関する調査研究）」

三重県いなべ市 介護予防・健康増進活動「元気づくりシステム」

- ・三重県いなべ市で実施された介護予防・健康増進活動。運動体験プログラムとしてストレッチ、ウォーキング、ボール運動等を実施。

2008年度のレセプト上での1人当たりの医療費削減額は、78,246円。約26.8%の減少。
参加者全体（588人）の医療費削減額は約4,600万円。

株式会社タニタ「タニタの健康プログラム」

- ・（株）タニタ本社において、全従業員が歩数計を持ち歩数を毎日計測。歩数を競うイベントや週1回の体組成計での計測を義務化するなどの施策を実施。

2012年度は2011年度に比べ、1人当たりの医療費削減額は18,204円。約12.3%の減少。
本社全体の医療費削減額は約268万円。

株式会社つくばウエルネスリサーチ

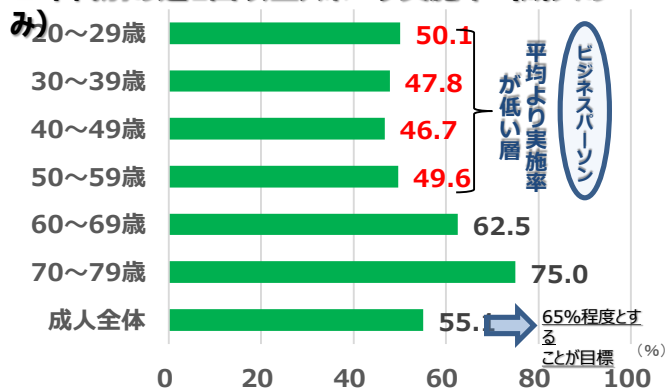
- ・参加者10万人の蓄積されたデータに基づき、一人ひとりの身体活動量、ライフスタイルに応じたプログラムを提供。新潟県見附市において、実証実験を実施。

運動プログラム参加群94人の 1人当たりの医療費削減額は104,234円。約27.8%の減少。

「FUN+WALK PROJECT」

- ・いわゆるビジネスパーソン世代は、**日々忙しく、なかなかスポーツをするための時間を確保できない**状況。
- ・そこで、普段の生活から気軽に取り入れることのできる「歩く」に着目し、**「歩く」に「楽しい」を組み合わせることで、自然と「歩く」習慣が身につく**プロジェクトとして**「FUN+WALK PROJECT」**を開始。
- ・まずは、1日の歩数を普段より**プラス1,000歩（約10分）／日**、1日当たりの**目標歩数として8,000歩**を設定。
- ・20代～40代のビジネスパーソン向けのシンボリックな活動として、「仕事」と「ファッション」を包含する**「歩きやすい服装」**を推進。

■年代別の週1回以上スポーツ実施率（成人のみ）



【歩きやすい服装（FUN+WALK STYLE）の推進】

底が柔らかく歩きやすい革靴・ビジネスシューズ、スニーカー、リュックサック、ストレッチ素材のスーツなど様々なスタイルを推進。通勤時間や休憩時間、昼休み等の隙間時間を活用して、「歩く」ことからスポーツのきっかけづくりを図っていく。



「歩く」ことが楽しくなる仕組みづくり・大衆に訴求する普及広報の実施

【FUN+WALKアプリ】



- ◆ **歩数に応じて利用可能なクーポン**
歩けば歩くほど、お得なクーポンが受け取れる。
クーポンで歩くモチベーションアップ！
- ◆ **ご当地キャラを活用したゲーム機能**
歩数に応じて、全国のご当地キャラクターが変身。
キャラクターを収集できる図鑑機能等、ゲーム性を付与することで、歩くモチベーションアップ！

【アンバサダーの任命】



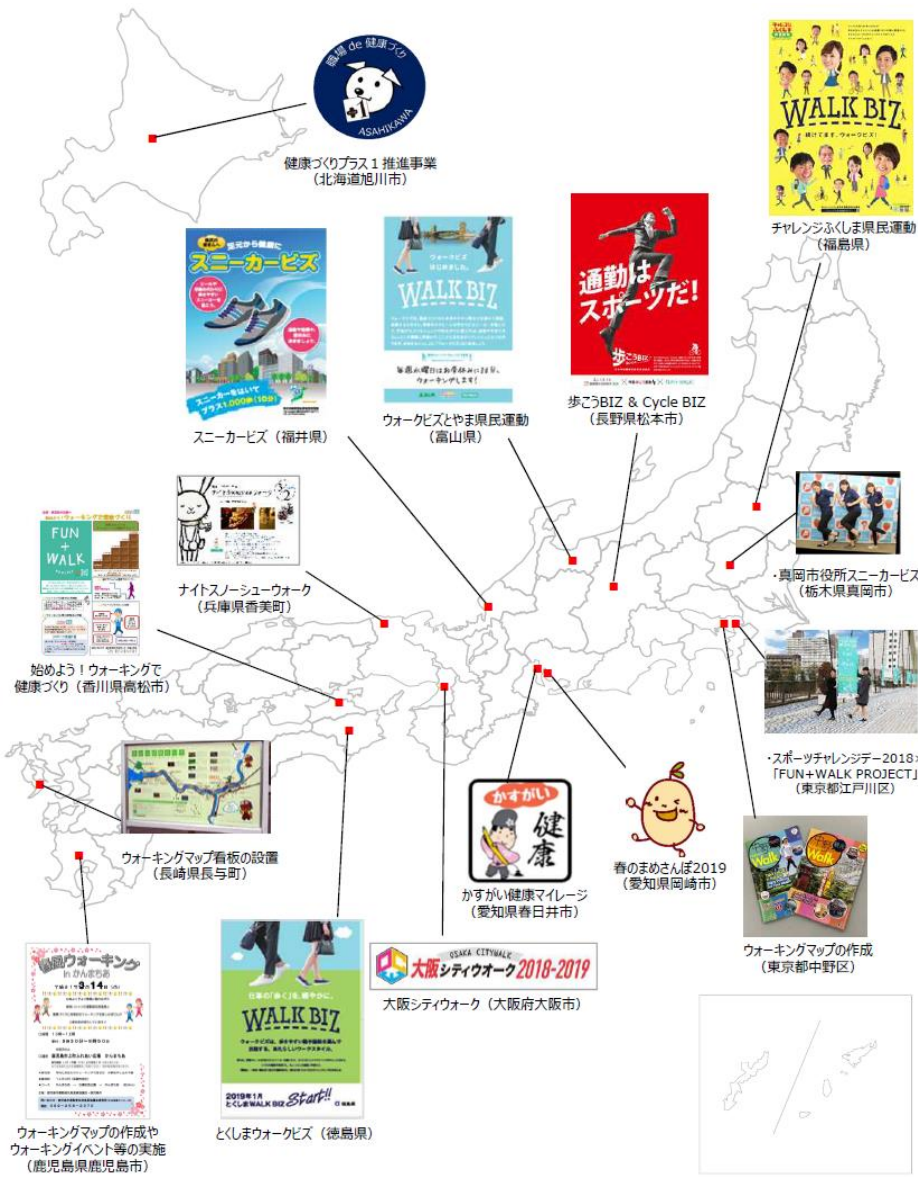
EXILE ÜSAさん

EXILE TETSUYAさん



（キャンペーンポスター（10月））

FUN+WALK PROJECTの推進（自治体等での取組例）



自治体・取組名	取組内容	ホームページ等
北海道旭川市 健康づくりプラス1推進事業	旭川市では、働く世代の方々の健康づくりをサポートしています。市内事業所を対象に、仲間と一緒に職場で手軽に行える「90日間で体重測定チャレンジ」などの取組を行っています。また、目標に応じたウォーキングモデルコースを紹介しています。	http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/kurashi/135/136/1390/d063350.html
福島県 チャレンジふくしま県民運動「WALK BIZ」	健康づくりの取組に身近なところからチャレンジしていく「チャレンジふくしま県民運動」を展開。その一環として歩きやすい靴や格好で通勤・勤務する「WALK BIZ (ウォークビス)」を推進しています。	http://c-f.kenmin-undo.jp/
栃木県真岡市 真岡市役所スニーカービス	日常の中で歩く機会を増やすことを目的に、職員のスニーカースタイルでの通勤、勤務を推奨する「真岡市役所スニーカービス」を実施。「歩く」「体を動かす」ことによる健康づくりを推進しています。	https://www.city.moka.lg.jp/
東京都中野区 ウォーキングマップの作成	だれもが外に出て体を動かし、楽しみながら健康づくりができるようウォーキングマップを発行しました。このウォーキングマップは、健康と観光という二つの要素が盛り込まれており、まち歩きを楽しむための情報も盛り込んであります。	http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/dept/401700/d025466.html
東京都江戸川区 スポーツチャレンジター×FUN+WALK PROJECT	チャレンジターでは、鈴木長官をお招きし「FUN+WALK PROJECT」とのコラボ企画としてウォーキングイベントを開催。アプリには江戸川区のおまつりキャラクター「ハッピーちゃん」も登場。ウォーキングの習慣化を目的に通年でキャンペーンを展開中。	
富山県 ウォークビスとやま県民運動	通勤の際など気軽にウォーキングに取り組み機運を醸成するため、スニーカーなど歩きやすい靴や服装で通勤・就業する「ウォークビスとやま県民運動」を展開しています。	http://kenko-toyama.jp/information/information-e000551.html
福井県 スニーカービス	歩きやすい靴を履くことで、多様な日常生活の中でも仕事の合間や休憩時間を利用して歩くなど、手軽に運動機会を確保することができる「スニーカービス」を新たな県民運動として実施しています。	http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kenkou/kenkou-zukuri/sneaker-biz.html
長野県松本市 歩こうBIZ & Cycle BIZ	通勤スタイルを徒歩や自転車に転換し、加えて公共交通を活用するなど、日常生活の中で、気軽に活動量を増やすことの普及啓発を目的に、市内の小売店や事業所と連携して、「歩こうBIZ & Cycle BIZ」に取り組みしています。	https://www.city.matsumoto.nagano.jp/kurashi/sigoto/kenkou/sangyou/arukobiz_cycle_biz.html
愛知県岡崎市 春のまめさんぽ2019～英雄(ヒーロー)に出会えるポイントを巡りながら楽しくゴールを目指します。コース途中や、ゴールにお楽しみがあります。	歩くきっかけづくりを目的としたウォーキングイベントを3月10日(日)に開催。平坦なコースで初心者にもおすすめです。英雄(ヒーロー)に出会えるポイントを巡りながら楽しくゴールを目指します。コース途中や、ゴールにお楽しみがあります。	http://www.city.okazaki.lg.jp/300/304/p023604.html
愛知県春日井市 かすがい健康マイルージ	食生活や運動などの生活習慣の改善に取り組んだり、健診(検診)の受診、健康講座等へ参加することで、マイルージ(ポイント)をためて、楽しみながら健康づくりに取り組んでいます。	https://www.city.kasugai.lg.jp/shimin/iryu/1003187/1003188/index.html
大阪府大阪市 大阪シティウォーク	ウォーキング愛好者だけでなく、初めて参加する方や子ども、高齢者など誰もが楽しめるウォーキングイベントを年に5回開催しています。大阪のまちの歴史やまちの魅力を楽しみながら歩けます。	https://osakacitywalk.com/
兵庫県香美町 ナイトスノーシューウォーク	関西の雪降る町から特別なイベントを3月2日(土)初開催！西洋かんじき＝スノーシューを履いて真っ暗な高原を探索します。雪を踏みしめるフカカの感触にキラキラ輝く雪の結晶。思わず寒さを忘れて大はしゃぎ間違いなしです。	http://www.town.mikatakami.lg.jp/www/contents/1547258633521/index.html
徳島県 とくしまウォークビス	糖尿病患者死亡率ワースト1位脱却に向けた、働き盛り世代の運動不足の解決策として、毎日の自然な運動を促すため、歩きやすい靴・服装での出勤・就業スタイル「ウォークビス」の全県展開を目指しています。	https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippannokata/kenko/kenko/5025216
香川県高松市 始めよう！ウォーキングで健康づくり	継続した運動習慣を身につけ、一日の歩数を今よりプラス1,000歩(約10分)を目標に、人事課、スポーツ振興課と保健センターが連携して職員の健康づくりを促します。市内の企業や事業所にも普及啓発を行い、取組を促します。	http://www.city.takamatsu.jp/kurashi/kenkou/kenkonotameni/hazimeyoukokingku.html ※3月1日サイトオープン予定
長崎県長与町 ウォーキングマップ看板の設置	ただ健康づくりに取り組むのではなく、「楽しみながら」健康づくりに取り組むお手伝いの一環として、長与駅前ウォーキングマップ看板を作成しました。1km毎に印をつけることで、ご履きになった方が自分用のコースを作れるようになっています。	
鹿児島県鹿児島市 ウォーキングマップの作成やウォーキングイベント等の実施	本市では、「かごしま市民すこやかプラン」を策定し、「身体活動・運動」の分野では、目標達成の1つに日常生活における歩数の増加を掲げ、小学校区ごとのウォーキングマップの作成や各種ウォーキングイベント等を実施しています。	https://www.city.kagoshima.lg.jp/kenkofukushi/hokenjo/kenkokudokuri/kenko/kenkozukuri/walkingmap.html

運動・スポーツ習慣化促進事業

(前年度予算額：180,000千円)
2019年度予定額：180,000千円

事業趣旨・目的

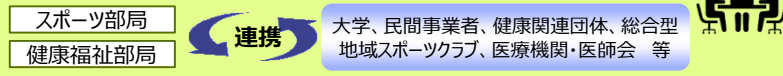
多くの国民に対して、スポーツを通じた健康増進を推進するためには、地域においてスポーツ及び健康に関する行動に効率的にアクセスすることができる環境の整備を行う必要がある。運動・スポーツの無関心層や、疾病コントロール及びQOLの維持・向上のために医師からスポーツを推奨されている有疾患者を含め、多くの住民が運動・スポーツに興味・関心を持ち、その習慣化を図るためのスポーツを通じた健康増進に資する取組を支援する。このことを通じて、多くの国民のスポーツへの参画を促進し、健康で活力ある長寿社会の実現を目指す。

事業内容

地方公共団体におけるスポーツを通じた健康増進に関する施策を持続可能な取組とするため、多くの住民が運動・スポーツに興味・関心を持ち、その活動の習慣化につながる取組を支援する。具体的には、地域の実情に応じ、生活習慣病の予防・改善等に効果的なスポーツを通じた健康増進に資する以下の取組を支援する。

【共通事項】

行政内（スポーツ部局、健康福祉部局等）や域内の関係団体（大学、民間事業者、スポーツ団体、医療機関、健康関連団体等）が一体となり、効率的・効果的に取組を実施することができる連携・協働体制の整備を行う。



【+a】

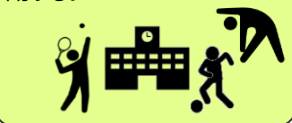
① 相談斡旋窓口機能

地域包括支援センターとの連携や、個別の人材を養成し「地域の窓口」として、地域住民の多様な健康状態やニーズに応じて、スポーツや健康に関する情報やスポーツ実施場所等を伝える窓口をワンストップ化し、スポーツを通じた健康増進を推進する環境を整備する。そのため、地域の関係団体が一体となり、連携・協働体制や窓口の在り方について検討及び実践を行う。



② 官学連携

官学連携をすることにより、大学に備わる専門的知識や施設を知の拠点として有効活用する。



相談者のニーズに応じ、最適な機関の紹介等を行う。

【選択事項（以下の取組①又は②のいずれか一つを選択）】

① 健康増進のための運動・スポーツ習慣化の実践

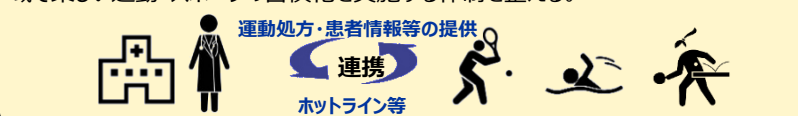
スポーツを通じた健康増進を一層推進するため、地域における運動・スポーツ無関心層へのアプローチや運動・スポーツ習慣化の課題解決を効果的に取組み、より一層事業の充実を図る。ターゲットはライフステージ別に以下のとおりとする（複数選択あり）。

- 1) ビジネスパーソン
- 2) 高齢者
- 3) 女性（中学生や高校生などの若年層又は成人）

② 医療と連携した地域における運動・スポーツの習慣化の実践

生活習慣病（糖尿病、高血圧、心疾患など）及び運動器疾患（腰痛症、変形性膝関節症など）等の生活機能低下を伴うハイリスクな住民が、個々の健康状態に応じた安全かつ効果的な楽しいスポーツを地域で安心して親しめる機会を創出する。医療機関とスポーツ施設と地方公共団体等が連携を図り、スポーツ医学の知見に基づいた、疾病コントロールの維持・改善につながる運動・スポーツを習慣化するためのシステム開発及び実践により、スポーツを通じた健康増進を図る。

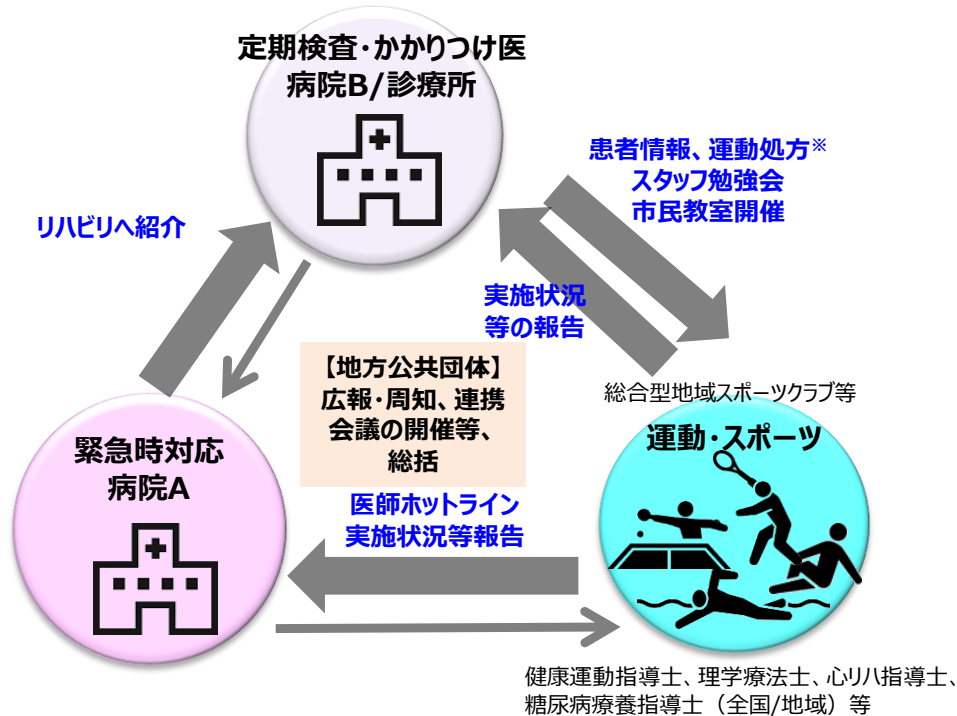
具体的には、運動・スポーツに十分知識と理解のある医師及び医療スタッフと、専門性を持った健康運動指導士等の運動指導者が連携して、患者情報等を共有し、地域で楽しい運動・スポーツの習慣化を実施する体制を整える。



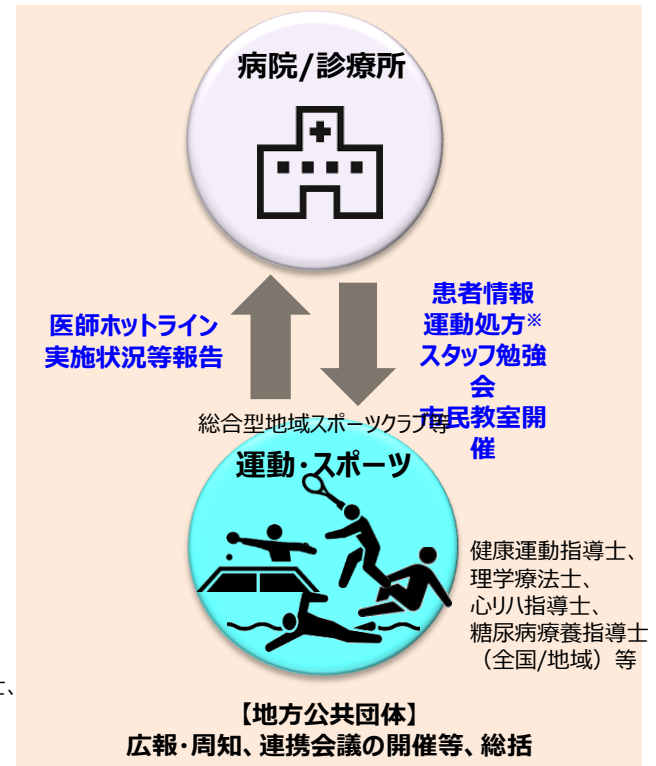
実施形態 都道府県・市町村に対する補助事業（定額）

医療とスポーツの連携例

例1 医療機関ネットワークとの連携



例2 1対1の連携



※ 運動処方は、医師のメディカルチェックを基に「種目」「強度」「時間」「頻度」を示したものとする。生活習慣病療養計画書を用いてもよい。

【参考資料】日本医師会編：運動療法処方せん作成マニュアル。日本医師会雑誌116(3)付録、1996

American College of Sports Medicine: ACSM's Guidelines for Exercise Testing and Prescription, 2017

厚生労働省とスポーツ庁の連携の状況

厚生労働省及びスポーツ庁はそれぞれ健康増進、スポーツの振興について取り組んできたところであるが、その連携を強化するために、「**スポーツを通じた健康増進のための厚生労働省とスポーツ庁の連携会議**」を設置。
(第1回を平成30年6月4日に開催)



厚生労働省が推進する「スマート・ライフ・プロジェクト」が掲げる4つのテーマ(適度な運動、適切な食生活、禁煙、健診・検診の受診)について、生活習慣病予防の啓発や健康増進のための優れた取組を行っている企業・団体・自治体を表彰する「**健康寿命をのぼそう! アワード**」において、本年度(第7回)から、**スポーツ庁長官賞を創設**。

厚生労働省
スマート・ライフ・プロジェクト



健康寿命を
のぼそう!
AWARD

- 募集部門：1.企業部門、2.団体部門、3.自治体部門
募集対象：スマート・ライフ・プロジェクト参画団体であり、生活習慣病予防の啓発活動、健康寿命をのぼすことを目的とした取組を行っている企業・団体・自治体
表彰：厚生労働大臣賞
最優秀賞 住友生命保険相互会社
優秀賞 ヤマトグループ・ヤマトグループ健康保険組合
特定医療法人 丸山会丸子中央病院
福井県
スポーツ庁長官賞
優秀賞 株式会社NTT東日本-関信越
社会福祉法人聖隷福祉事業団浜松市リハビリテーション病院
富山県

厚生労働省は、健康増進普及月間(9月)イベント「スマートライフフェスタ〜ココロもカラダもリフレッシュ〜 ナイトヨガ体験」を神宮球場グラウンドで開催(2,000人規模)。
9月3日には、鈴木大地スポーツ庁長官も参加し、ナイトヨガを体験した。

厚生労働省との連携により、健康への意識向上を図ることを目的とした**楽しみながら健康になるイベント「FUN+HEALTH FESTA」**をイオンモール広島府中で開催(平成31年1月25・26日)。



モール内のウォーキングコースを元広島東洋カープの天谷宗一郎さん、厚生労働省中村女性の健康推進室長とともに安達健康スポーツ課長がウォーキング。